

ブロック塀の診断カルテ

A. 基本性能の診断〔基本性能値〕

診断項目	基準点	評価点
建築後の年数	10年未満	① 10
	10以上、20年未満	() 8
	20年以上	5
高さの増積み	なし	② 10
	あり	() 0
使用状況	塀単独	③ 10
	土留め・外壁等を兼ねる	() 0
塀の位置	塀の下に擁壁なし	④ 10
	塀の下に擁壁あり	() 5
塀の高さ	1. 2m以下	⑤ 15
	1. 2mを越え、2. 2m以下	() 10
	2. 2mを越える	0
塀の厚さ	15cm以上	⑥ 10
	12cm	() 8
	10cm	5
透かしブロック	なし	⑦ 10
	あり	() 5
鉄筋	あり	⑧ 10
	なし	() 0
	確認不能	0
控え壁・控え柱	あり	⑨ 10
	なし	() 5
かさ木	あり	⑩ 10
	なし	() 5
基本性能値 (①～⑩までの評価点の合計)		[A]

B. 壁体の外観診断〔外観係数〕

診断項目	基準係数	評価係数
全体の傾き	なし	⑪ 1.0
	あり	() 0.7
ひび割れ	なし	⑫ 1.0
	あり	() 0.7
損傷	なし	⑬ 1.0
	あり	() 0.7
著しい汚れ	なし	⑭ 1.0
	あり	() 0.7
外観係数 (⑪～⑭の最小値)		[B]

C. 壁体の耐力診断〔耐力係数〕

診断項目	基準係数	耐力係数
ぐらつき*	動かない	1.0
	わずかに動く	① 0.8
	大きく動く	0.5
耐力係数		[C]

*1 診断する場合は、周囲に人がいないことを確認し、必ず前方へ押して下さい。

D. 保全状況の診断〔保全係数〕

診断項目	基準係数	保全係数
補強・転倒防止対策等の有無	あり	① 1.5
	なし	() 1.0
保全係数		[D]

診断結果の判定

1. 総合評点(Q)を求めましょう。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{基本性能値} \\ \hline A \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{外観係数} \\ \hline B \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{耐力係数} \\ \hline C \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{保全係数} \\ \hline D \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{総合評点(Q)} \\ \hline \\ \hline \end{array}$$

2. 総合評点(Q)から、診断結果を判定しましょう。



安全性の判定と今後の対応			
チェック	総合評点	判定	今後の対応
<input type="checkbox"/>	$Q \geq 70$	安全である	3～5年後にまた診断して下さい。
<input type="checkbox"/>	$55 \leq Q < 70$	一応安全である	1年後にまた診断して下さい。
<input type="checkbox"/>	$40 \leq Q < 55$	注意を要する	精密診断を行い、再度判定するか転倒防止対策等を講じて下さい。
<input type="checkbox"/>	$Q < 40$	危険である	早急に転倒防止対策を講じるか、撤去して下さい。

※ 診断結果は、あくまでも目安です。専門家による精密診断を受けると、より正確に判定できます。